

有珠山噴火から24年

有珠山は2000年3月31日に噴火を始め、西山西麓・金比羅山付近に多数の火口を作りました。噴火活動は11月まで断続的に続き、最大で約16,000人が避難しました。

20世紀の100年間で、有珠山は20～40年おきに噴火を繰り返してきました。最後の噴火から24年が経過した今月、あらためて「噴火への備え」を考えてみませんか。

～ 数字で振り返る2000年噴火 ～



2000年3月、生活圏で起こった噴火。

避難所数 **68カ所**

約16,000人の避難者を受け入れるため、豊浦町19カ所、伊達市16カ所、旧虻田町12カ所、長万部町8カ所、壮瞥町7カ所、旧洞爺村3カ所、室蘭市2カ所、登別市1カ所に避難所が開設されました。

避難指示区域の解除や仮設住宅の建設に伴い、8/28にはすべての避難所が閉鎖されました。

地盤の隆起 **約70m**

2000年の噴火では、地盤の隆起やすれが多く発生しました。道路や建物の被害が多かった要因の一つです。

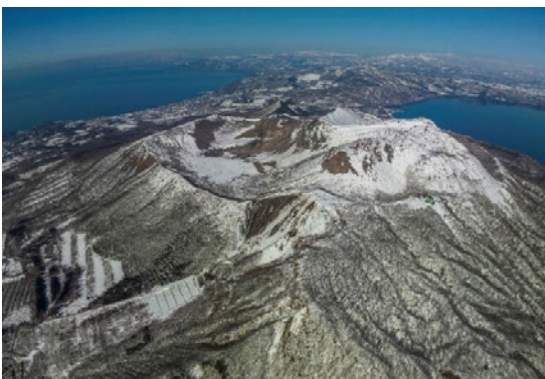
もっとも隆起した西山西麓火口周辺では、噴火前と比較して約70mも地面が持ち上がりました。

応急仮設住宅数 **734戸**

応急仮設住宅は、面積が確保できる9つの地区に建設されました。第1次分建設は4/14着工、5/5から順次入居が始まり、ピーク時には1,622人が生活しました。

応急仮設住宅は噴火開始から2年後の2002年7月まで使われました。

参考文献『2000年有珠山噴火災害・復興記録』平成15年 北海道 他



有珠山上空より、左が噴火湾、右が洞爺湖。

有珠山は活火山です。

生活圏で噴火活動が始まれば、大きな被害が発生します。ジオパークでは、次の噴火への備えとして減災教育をすすめると同時に、大地の特徴を知り、楽しむ人を増やす取り組みを行っています。

